

JUL  
26

# 第11回 共生学コロキウム

## The 11<sup>th</sup> Kyosei Studies Colloquium

**Date:** Thu, Jul 26, 2018

**Time:** 15:00~17:00

**Place:** Room 106, East Building,  
School of Human Sciences  
Osaka University

場所：大阪大学人間科学研究科 東館106

日時：2018年7月26日（木） 15:00~17:00

# 持続可能な共生社会を考える

## 経済思想史の視点から

堂目卓生（社会ソリューションイニシアティブ長・大阪大学大学院経済学研究科教授）

混迷する世界を前に、私たちは今後どのような持続可能な共生社会を目指すべきでしょうか。この問題を、経済思想の歴史に立ち返り、共感の重要性を唱えた18世紀のアダム・スミス、機会の均等化を訴えた19世紀のジョン・ステュアート・ミル、そしてケーパビリティ・アプローチを提唱するアマルティア・センの思想を手がかりに考えたいと思います。また、経済学者ではありませんが、「社会的弱者」が社会に与える恵みという視点から50年にわたる実践活動をつづけてきたジャン・バニエの思想を取り上げます。本講演が、日本社会およびグローバル社会における様々な課題を考えるためのフレームワークを与えることができれば幸いです。

申し込み不要・参加無料

主催

コーディネーター

使用言語

問合せ

大阪大学 人間科学研究科 共生学系

栗本英世（共生学系教授）

日本語

kyosei@hus.osaka-u.ac.jp



## 第 11 回 共生学コロキウム

2018 年 7 月 26 日

■**講演者**：堂目卓生（社会ソリューションイニシアティブ長・大阪大学大学院経済学研究科教授）

■**タイトル**：「持続可能な共生社会を考える：経済思想史の視点から」

■**プロフィール**：

1983 年 慶應義塾大学経済学部卒業

1988 年 京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

1991 年 経済学博士(京都大学)

1989 年 立命館大学経済学部助教授

1996 年 大阪大学経済学部助教授

2001 年 大阪大学大学院経済学研究科教授 現在に至る

2005 年 日経・経済図書文化賞 (The Political Economy of Public Finance in Britain 1767-1873, 2004, Routledge に対して)

2008 年 サントリー学芸賞 (政治・経済部門) (『アダム・スミス ―「道徳感情論」と「国富論」の世界』、2008 年、中央公論新社に対して)

■**講演要旨**：

混迷する世界を前に、私たちは今後どのような持続可能な共生社会を目指すべきでしょうか。この問題を、経済思想の歴史に立ち返り、共感の重要性を唱えた 18 世紀のアダム・スミス、機会の均等化を訴えた 19 世紀のジョン・ステュアート・ミル、そしてケーパビリティ・アプローチを提唱するアマルティア・センの思想を手がかりに考えたいと思います。また、経済学者ではありませんが、「社会的弱者」が社会に与える恵みという視点から 50 年にわたる実践活動をつづけてきたジャン・バニエの思想を取り上げます。本講演が、日本社会およびグローバル社会における様々な課題を考えるためのフレームワークを与えることができれば幸いです。

■**参考図書**：

アダム・スミス 『道徳感情論』(1759)、水田洋訳、岩波文庫、2003 年

ジョン・ステュアート・ミル 『自由論』(1859)、塩尻・木村訳、岩波文庫、1971 年

アマルティア・セン 『正義のアイデア』(2009)、池本幸生訳、明石書店、2011 年

ジャン・バニエ 『人間になる』(2001) 浅野幸治訳、新教出版社、2005 年

堂目卓生 『アダム・スミス』、中央公論新社、2008 年